

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料
- ・ 「農業災害補償法」に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

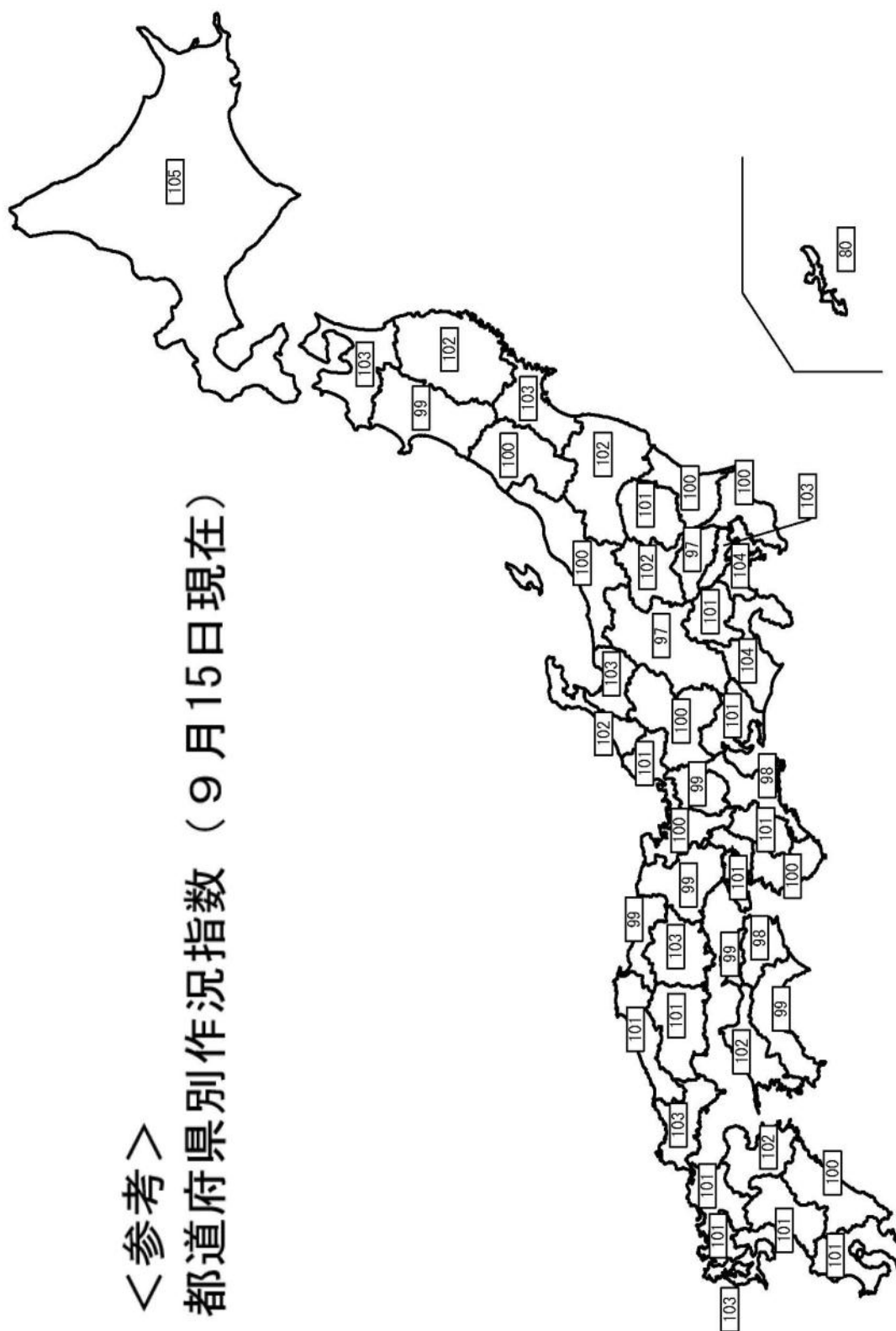
水稻の年次別

【調査結果】

1 平成23年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は163万2,000haで、前年産に比べて2万5,000haの減少が見込まれる。

なお、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の面積を除いた主食用作付見込面積は152万6,000haで、前年産に比べて5万4,00

<参考> 都道府県別作況指数（9月15日現在）



【統計表】

統計表一覧

ページ

- 1 平成23年産水稻の作付面積、10 a 当たり予想収量及び作柄概況(9月15日現在)
・・・・・・・・・・ 6
- 2 平成23年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合(9月15日現在)・・・・・・・・・・ 8

利用上の注意

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

1 平成23年産水稻の作付面積、10a 当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

全 国 ・ 都道府県	作 付 面 積
------------------	---------

予想収穫量(主食用) ③=①×②	10a当たり 平年収
---------------------	---------------

2 平成23年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

都 道 府 県	出 穂 期								刈取済面積 割 合	
	始 期	最盛期		終 期	最盛期の比較					
					対平年差	対前年差				
	月	日	月	日	月	日			%	
北 海 道	7.	27	8.	1	8.	7	1 日 早	5 日 遅	8	
青 森	8.	3	8.	6	8.	10	2 日 早	4 日 遅	0	
岩 手	8.	3	8.	7	8.	14	1 日 早	3 日 遅	1	
宮 城	8.	3	8.	7	8.	12	並 み	4 日 遅	1	
秋 田	8.	2	8.	6	8.	11	並 み	3 日 遅	0	
山 形	8.	4	8.	8	8.	15	並 み	4 日 遅	0	
福 島	8.	7	8.	13	8.	18	並 み	5 日 遅	0	
茨 城	7.	23	8.	5	8.	16	1 日 遅	5 日 遅	60	
栃 木	7.	30	8.	6	8.	20	並 み	3 日 遅	12	
群 馬	8.	10	8.	21	8.	30	2 日 早	3 日 遅	2	
埼 玉	7.	27	8.	12	8.	28	1 日 早	1 日 遅	37	
千 葉	7.	17	7.	29	8.	8	並 み	4 日 遅	93	
東 京	8.	11	8.	16	8.	25	1 日 早	3 日 遅	1	
神 奈 川	8.	6	8.	13	8.	21	1 日 遅	4 日 遅	4	
新 潟	7.	28	8.	7	8.	14	3 日 早	並 み	30	
富 山	7.	22	8.	4	8.	13	3 日 早	1 日 早	33	
石 川	7.	20	8.	1	8.	10	3 日 早	2 日 早	62	
福 井	7.	18	8.	2	8.	11	並 み	2 日 早	81	
山 梨	8.	5	8.	13	8.	22	1 日 早	2 日 遅	4	
長 野	8.	1	8.	9	8.	16	1 日 早	3 日 遅	4	
岐 阜	7.	22	8.	21	9.	2	1 日 遅	2 日 遅	27	
静 岡	7.	23	8.	11	9.	1	2 日 早	2 日 遅	40	
愛 知	7.	26	8.	18	9.	3	並 み	1 日 遅	29	
三 重	7.	17	7.	26	8.	10	並 み	1 日 早	92	
滋 賀	7.	28	8.	3	8.	18	1 日 早	並 み	49	
京 都	7.	25	8.	6	8.	18	3 日 早	並 み	37	
大 阪	8.	2	8.	23	8.	31	1 日 遅	1 日 遅	7	
兵 庫	7.	30	8.	13	8.	28	1 日 早	1 日 遅	35	
奈 良	7.	31	8.	22	8.	28	1 日 早	並 み	10	
和 歌 山	7.	21	8.	8	8.	23	並 み	並 み	38	
鳥 取	7.	31	8.	9	8.	19	並 み	2 日 遅	30	
島 根	7.	21	8.	5	8.	17	並 み	並 み	49	
岡 山	7.	30	8.	20	9.	2	並 み	2 日 遅	23	
広 島	7.	28	8.	11	8.	23	1 日 遅	並 み	38	
山 口	7.	29	8.	9	8.	28	3 日 早	並 み	41	
徳 島	早期栽培	7.	8	7.	17	7.	25	並 み	1 日 早	100
	普通栽培	7.	18	8.	1	8.	27	2 日 早	並 み	70
香 川		7.	23	8.	21	9.	2	1 日 早	並 み	38
愛 媛		7.	18	8.	14	9.	3	並 み	1 日 早	40
高 知	早期栽培	6.	29	7.	7	7.	16	1 日 早	4 日 早	100
	普通栽培	8.	14	8.	21	9.	5	並 み	1 日 遅	1
福 岡		8.	2	8.	24	9.	4	並 み	2 日 遅	15
佐 賀		7.	24	8.	27	9.	10	1 日 遅	1 日 遅	9
長 崎		7.	20	8.	27	9.	5	2 日 遅	2 日 遅	15
熊 本		7.	13	8.	22	9.	6	1 日 遅	2 日 遅	7
大 分		8.	3	8.	27	9.	3	3 日 遅	3 日 遅	4
宮 崎	早期栽培	6.	23	6.	28	7.	3	並 み	4 日 早	100
	普通栽培	8.	19	8.	26	9.	3	1 日 遅	2 日 遅	0
鹿 児 島	早期栽培	6.	24	7.	1	7.	10	2 日 遅	1 日 遅	100
	普通栽培	8.	22	8.	28	9.	6	1 日 遅	1 日 遅	-
沖 縄	第一期稲	5.	16	5.	30	6.	14	11日遅	15日遅	100

注：出穂期の始期とは出穂済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

なお、全国農業地域の区分は、次のとおりである。

全国農業地域	所 属 都 道 府 県 名
北 海 道	北海道
東 北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北 陸	新潟、富山、石川、福井
関 東 ・ 東 山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東 海	岐阜、静岡、愛知、三重
近 畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中 国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四 国	徳島、香川、愛媛、高知
九 州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖 縄	沖縄

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：38,981単位区 巡回・見積り：1,725市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆調査：10,188筆 作況基準筆調査：654筆 巡回・見積り：1,725市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。
- (2) 「穂数の多少」は、1㎡あたりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂あたりもみ数の多少」は、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡あたりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡あたり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。
- (8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

9 利用上の注意

本調査（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

○各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

米 関 係 ペ ー ジ：農林水産省＞組織・政策＞生産局＞米と麦

<http://www.maff.go.jp/j/soushoku/keikaku/soukatu/>

問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03－3502－8111 内線：3682

（直通）03－3502－5687

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03－3502－8111 内線：3681

（直通）03－6744－2045

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 広報普及班

電話：（代表）03－3502－8111 内線：3589

（直通）03－6744－2037